

勝瑞発掘だより 1号

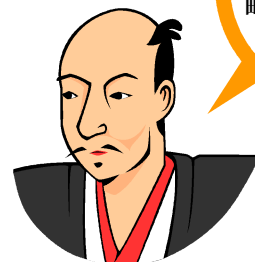
守護町勝瑞遺跡

室町時代から戦国時代にかけて阿波を支配した細川氏・三好氏の一族は、「勝瑞」を本拠地として、あいついで中央へ進出し、国の実権を手に入れました。徳島県の歴史の中で阿波がもっとも輝いた時代であり、「勝瑞」がもっとも注目された時代です。「勝瑞」には守護町が営まれ、大名の屋敷や寺社が建ち並び、市場や港は多くの人々でにぎわっていました。



この10年の発掘調査で、少しずつ「勝瑞」の栄光が再発見されつつあり、特に平成11年に「勝瑞館跡」が発見されたことで、全国的に一躍脚光を浴びることになりました。館の周囲を幅12m深さ4mの濠がめぐり、南北約150m東西約120m、敷地面積が5,500坪の広大な屋敷で、都の將軍邸をモデルとして建てられています。規模は將軍邸を上まわります。「勝瑞館跡」内では、主人が宴会・接待に使っていた「会所」と呼ばれる建物や庭園。主人が日常生活を送っていたとされる「常御殿」という建物が見つかっています。大量のかわらけや珍しい中国陶磁器。天目茶碗などの茶道具といったものが出土しています。

室町	1336	細川氏、阿波の守護となる
	1400年代	この頃、細川氏、守護所を秋月から勝瑞へ移す
	1467	応仁の乱始まる
	1552	三好義賢、主君細川持隆を謀殺し阿波の実権を握る
	1553	三好長慶の京都支配始まる
	1562	義賢、和泉久米田の戦いで敗死
	1564	長慶、病死
	1573	織田信長、將軍義昭追放。室町幕府滅亡
安土桃山	1582	勝瑞落城・本能寺の変



勝瑞は
それはにぎやかな
町だったぞ



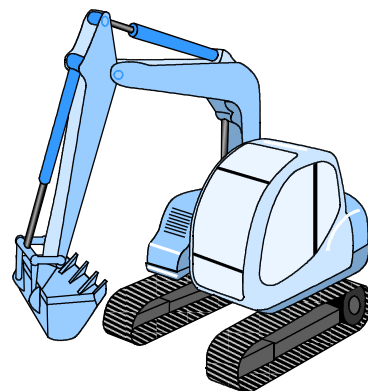
今何しよんえ？

今年度は5月から2月末まで発掘調査を行います。現在は「勝瑞」がにぎわっていた室町時代の地層まで掘り下げたところで、当時のかわらけなどが数点出土しています。

発掘って何しよんえ？

まず、遺跡とは関係のない地層（表土）を機械（ショベルカー）などで掘り下げます。遺跡がある地層を見つけたら、少しずつ土を取り除いて、遺構（昔の人がのこした柱の跡や、建物の跡）を見つけます。遺構は土の色が違います。見つけた遺構を小さいスコップなどで慎重に掘っていきます。遺構の中からは土器がよく見つかります。

次に、見つけた遺構を写真や図面に記録します。最後に記録した写真・図面をもとに「報告書」を作ります。



誰が掘ってるんえ？

考古学の専門知識を持った調査主任のもと、測量や記録・撮影を担当する調査員、掘削を担当する作業員が働いています。

（島田）